

研究分野のキーワード： 聴覚障害児の言語発達・障害認識・学習指導，知的障害・発達障害児の学習指導・読み書き指導

研究紹介

私は、聴覚言語障害児教育について研究を進めています。大学には聴覚障害学生が数名在籍し、私や学生たちは、聴覚障害の有無に関わらず、普段から手話を使って会話し、共に語り、共に活動しています。また、大学にて、聴覚障害学生の修学支援を行っています。

(1) 聴覚障害児教育： 現在、新生児スクリーニング検査の実施が広がり、生後間もなく、子どもの聴覚障害が発見されます。聴覚障害児は、3～4カ月頃には補聴器の装用を始めます。聴覚障害児とその保護者は、専門の療育機関に通い、きこえやコミュニケーションの発達支援を受け、子どもは成長していきます。しかし、聴覚障害児は、音声言語の聞き取りが困難であるため、ことばの発達に遅れが生じることが多いです。この他、学習や社会性の発達が遅れたりします。このように、聴覚障害児に対して、生後から幼児期、学齢期を通して、療育機関や聾学校、通常の学校等で、きこえやことば・学習・社会性等の指導・支援が必要となります。

また、聴覚障害児は、思春期になると、自分のきこえにくさについて思い悩み、心理的に不安定になる子どもが多いです。思春期・青年期を通じて、聴覚障害児は、自分自身の障害を理解し、自分の聞こえにくさを踏まえた上で、他者と関わるスキルを学んでいく必要があります。聴覚障害児は、きこえる人と同じようになることを目標として努力するのではなく、きこえにくいことを認めた上で、自分ができることに気づき、自分らしく生活していくことが重要です。

上記に述べたように、私は、聴覚障害児が学び成長する際の課題を捉え、先生方や保護者の方々と話し合い、子どもの指導・支援の在り方を研究しています。研究内容は、聾学校や通常の小学校で学ぶ聴覚障害児のことばの指導、学習指導の在り方に関して研究を進めています。研究論文のテーマは、聴覚障害児の日本語と手話の能力の比較、聴覚障害児のコミュニケーションの使い分けの実態調査、聴覚障害者の障害認識・アイデンティティ形成、聴覚障害児の障害認識を目的とした自立活動、聴覚障害児の保護者の教育的ニーズの調査等です。

(2) 発達障害児の学習指導・読み書き指導： 私は、聴覚障害児教育を中心として研究を進めてきましたが、発達障害児の学習指導や読み書き指導に関する研究も進めています。聴覚障害児はきこえにくい障害のある子どもですが、発達障害児の中には聴覚認知が弱い子どもが大勢います。実際、聴覚障害児と発達障害児に対して、知能検査を実施すると類似した結果が出ることがあります。この結果を活用して、聴覚障害児に対することばや読み書き・学習指導を検討した結果を、認知特性が類似した発達障害児の指導に応用し、子どもの指導を行っています。この他、小中学校に出かけて、先生方の教育相談を行ったり、先生方の授業での指導の在り方に関して研究を進めたりしています。